

## 2020 年度企業家研究フォーラム賞の選考について

企業家研究フォーラム賞審査委員長

原 拓 志

### 選考の経緯

2020 年度企業家研究フォーラム賞の選考においては、著書の部では、推薦のあった 5 作品、および寄贈図書の中から審査員によって選ばれた 2 作品の計 7 作品、論文の部では、推薦のあった 2 論文に加え、企業家研究フォーラム 16 号に掲載された 3 論文の計 5 論文、特別賞については、推薦のあった 1 名の方について、2 段階の審査、3 回の審査委員会議（新型コロナウイルス感染防止のため全てメール審議）において、丁寧かつ慎重な検討がなされ、結果として下記の受賞者を決定した（敬称略）。

### 著書の部

曾根 秀一（静岡文化芸術大学）著

『老舗企業の存続メカニズム－宮大工企業のビジネスシステム－』

（株式会社中央経済社 2019 年 3 月 30 日）

授賞理由：本書は、宮大工老舗企業 4 社を対象とし、丹念な歴史研究と経営学の理論を統合して長期存続の理由を分析した研究書である。数百年にわたる企業の歴史に、史料の発掘とインタビューによって取り組み、企業間の比較を通じて社会・技術環境の大きな変化への適応／不適応をもたらす要因について明らかにしている。経営史、経営学のいずれから見ても優れた研究であり、企業家研究という本フォーラムの趣旨にも適合していて、受賞作品に選ばれた。

### 論文の部

本庄 裕司（中央大学）・長岡 貞男（東京経済大学）著

“Initial public offering and financing of biotechnology start-ups: Evidence from Japan”

（*Research Policy*, 47(1), February 2018, Pages 180-193）

授賞理由：日本のバイオ・スタートアップを対象とした実証分析を行い、当産業における新規株式公開（IPO）と資金調達の問題について詳細に分析した研究である。国際的なトップジャーナルに掲載され、本フォーラム会員の国際的な学術的貢献を示す業績である。日本のスタートアップは対象数が限定されていることから、定量的な研究蓄積が少ない中で、本研究は独自のデータセットを用いて、その穴を埋めるのに一定の貢献を果たしており貴重な成果であり、受賞作品に選ばれた。

遠藤 寛士（一橋大学（院）著

「日本交通の組織変革—川鍋一郎によるサービス差別化と組織メンバーの主体性喚起—」

（『企業家研究』第16号，2019年7月，47-69頁）

授賞理由： 日本交通の組織変革の事例を丹念に追いながら，組織アイデンティティ論を援用しつつ，組織メンバーの主体性の喚起を取り入れ，新たな組織変革論を目指す野心的な取り組みである。企業家活動が経営者だけでなく組織成員や顧客もダイナミックに相互作用しつつ実現していることを例示している。論旨明快で，企業家の果たす役割（メンバーの巻き込み）もクリアに主張されており，フォーラム賞の趣旨に相応しい。以上の理由により受賞作品に選ばれた。

### 特 別 賞

末 永 國 紀（同志社大学名誉教授）

授賞理由： 末永國紀先生は，長年にわたって，近江商人の実証研究を続け，『近代近江商人経営史論』（有斐閣），『日系カナダ移民の社会史—太平洋を渡った近江商人の末裔たち—』（ミネルヴァ書房），『近江商人—三方よし経営に学ぶ—』（ミネルヴァ書房），『近江商人—現代を生き抜くビジネスの指針—』（中公新書）など数々の著作を公刊されてきた近江商人研究の第一人者である。先生は数多くの近江商人の史料を発掘，調査し，それらを駆使して，江戸時代の近江商人にとどまらず，近・現代における活動，海外における活動の実態を克明に明らかにされた。また，「三方よし」に代表されるような近江商人の経営理念の啓蒙にも大きく貢献した。京都産業大学および同志社大学で長年にわたり教鞭をとられ，（財）近江商人郷土館館長，滋賀県近江商人研究ネットワーク委員会座長なども歴任された。さらに，企業家研究フォーラムや大阪企業家ミュージアムにもご貢献をいただいている。

これらの長年の企業家研究への貢献を鑑み，特別賞をお贈りすることを審査委員全員一致で決定した。